

おたふくかぜ予防接種について（説明書）

※予防接種を受ける前に、必ずお読みください。

1. 病気の説明（おたふくかぜ）

おたふくかぜは、ムンプスウイルスの感染によって起こる全身性感染症です。感染経路は基本的に飛沫感染ですが、場合によっては直接・間接の接触感染もあります。

2～3週間の潜伏期の後、発熱と痛みを伴う耳下腺、顎下腺の腫れが急激に現れます。耳下腺の腫れは1～3日でピークとなり、7～10日で回復します。発熱は1～6日続きます。

合併症としては、精巣炎、卵巣炎、肺炎、腎炎、髄膜炎、髄膜脳炎及び感音性難聴等があります。感音性難聴は発症すると聴力の回復は困難です。

2. おたふくかぜワクチンについて

（１）接種時期 おたふくかぜワクチンは、日本小児科学会では、1歳と小学校就学前1年間の2回接種を推奨しています。能代市では、いずれか1回分の接種費用を助成します。

（２）種類 生ワクチンです。おたふくかぜワクチンを接種後、他の生ワクチン（ＢＣＧ、麻しん風しん混合、水痘など）の予防接種を受けるときは、27日以上空けてから接種してください。

3. 費用助成について

（１）助成対象 満1歳から小学校就学前年度（年長児相当）の3月31日まで

※以下の方は対象外となりますのでご注意ください。

- ・おたふくかぜにかかったことがある方
- ・おたふくかぜ予防接種を2回受けたことがある方

（２）助成回数 1回

（３）助成金額 4,000円

※医療機関では、接種時にかかった実費から4,000円を差し引いた金額をお支払いください。生活保護を受けている方は無料です。

4. 予防接種後に起こる可能性のある症状（副反応）

主な副反応は、接種部位の発赤・腫脹（はれ）等の局所反応です。また接種部位以外の副反応として発熱・軽度の耳下腺腫脹・咳・鼻汁等が見られます。いずれも一過性で数日以内に軽快します。

また、稀に生じる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状（ショック症状・じんましん・呼吸困難等）・無菌性髄膜炎等が起こる可能性があります。

5. 予防接種を受けることができない人

- (1) 明らかに発熱している方（通常は 37.5℃以上の場合）
- (2) 重い急性疾患にかかっている方
- (3) このワクチンに含まれる成分によってアナフィラキシー（通常接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や全身性じんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）を起こしたことがある方
- (4) その他、医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方



6. 予防接種を受けるにあたって、医師とよく相談しなくてはならない人

- (1) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障がいなどの基礎疾患のある方
- (2) 過去に予防接種で接種後 2 日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみのみられた方
- (3) 今までにけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある方
- (4) 今までに免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人
- (5) このワクチンの成分に対してアレルギーを起こすおそれのある方



7. 予防接種を受けた後の注意

- (1) 接種後 30 分間は、急な副反応が起こることがありますので、医師（医療機関）とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。
- (2) 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- (3) 接種後 1 週間は体調に注意しましょう。また、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- (4) 入浴は差しつかえありませんが、接種部位を強くこすることはやめましょう。
- (5) 接種当日はいつもどおりの生活をしてかまいませんが、激しい運動は避けましょう。

8. 健康被害が起こった場合

予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、申請することにより補償が受けられる場合があります。

おたふくかぜ予防接種は、予防接種法に基づかない接種（任意接種）として取り扱われます。この接種で健康被害を受けた場合は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく救済制度を受けることができます。診察した医療機関へご相談ください。

お問い合わせ



能代市 子育て支援課 こども家庭センター 電話 89-2948